令和元年１０月１５日
なら歴史芸術文化村整備推進室
委　員　確　認　済

第１１回なら歴史芸術文化村構想等検討委員会　議事録

日　時：令和元年８月２８日（水）１３：００～１４：２０
場　所：東京都千代田区平河町２－６－３
　　都道府県会館　４階　４０８会議室
参集者：（委　員）佐藤委員、絹谷委員、浮舟委員、小林委員
　　（　県　）荒井知事
　　（天理市）並河市長
概　要：委員改選後、初めての開催となるため委員長を選任（佐藤委員長、絹谷副委員長(共に再任)）。
　　事務局、天理市より資料説明した後、委員による意見交換を実施。
　　内容については下記のとおり。

浮舟委員）
　どのような運営をするのかが大きなポイント。
　ハード面ではアクセスの整備状況はどうなっているのか。
荒井知事）
　山の麓にある施設のため歩いて行くのは難しいので、例えば指定管理の一貫として施設バスを保有して送迎することがひとつ考えられる。県内の文化財や山の辺の道を回りたい人に向けて、サービスを提供できたら良い。定期の路線バスやマイカー、タクシーの利用に加えて、施設を利用する人にはバスの利用も検討している。
浮舟委員）
　天理駅から文化村までバスでどれくらいかかるのか。
並河市長）
　車だと 10 分かからない。
荒井知事）
　1 時間に 2 本ほど移動手段があれば施設に来る人も増えると思う。

小林委員）
　施設がいよいよ出来てくる感じがして楽しみである。
　運営体制について非常によく考えられている。県が責任を持つのは良い面も

あるが、難しい面もある。知事の思い入れがある施設を継続的に運営し、目的が花開いていくことを考えると、施設の設置条例を単につくるだけでなく施設の目的を明確に条例に規定してはどうか。トップが交代しても機能していく仕組みが必要である。他の自治体で、非常に良い取組をしていてもトップが交代して続かなかった事例もある。この先 50 年、100 年と考えるのであれば、継続させる仕組みが必要である。

以前に奈良県の文化財保存関連の会議に出席した際に、文化財に関する条例を制定すると聞いた。文化振興なのか、文化でまちづくりをするのか、文化資源を活かしてまちづくりをするのか、この施設の目的は複合的であるが、そのような将来の継続性への担保が必要である。このような施設が出来るのは日本で初めてだと思うし、だからこそ長く続けていくことに意味があると思う。

天理市も同様である。素晴らしい活動を市民も関わって行っており、施設ができることをきっかけに市全体が変わっていこうとしている気がする。天理市でも条例をつくって施策を関連づけることを検討してはどうかと思う。

また、ホテルの宿泊費などには、学生に活動してもらうことへの考慮があっても良い。

荒井知事）

継続性のある運営体制は大切。政治と文化は共存が難しいが、開村後に良いパフォーマンスを継続できれば評価していただけると思っている。

現在、文化振興条例、文化財保存活用条例の制定を検討しており、文化振興条例に文化村の活動の理念を特記することも考えられる。そのような条例と施設の設置条例をリンクさせても良い。

小林委員）

普遍的な目標を掲げ、その目標を担っていく施設として特記する方が継続性が担保できると思う。

荒井知事）

国の後押しなどがあれば県民が納得してくれるケースもある。NAFIC なども地元の理解や応援が支えてくれている。施設が動いてから成果を見せて地位を確保することが成功につながる。

指定管理に事業の中身を全て任すと偏ってしまう可能性があるため、ある程度県の調整が必要。コミッショナーと各団体をうまく繋いだり、新しい事業を呼んでくることをチーフコーディネーターに期待している。

ホテルの長期宿泊について、文化村の発端は東京藝大の分室機能を想定していた。藝大がホテルをステークホルダーとして囲いこみ、何室か分室替わりに使って、日ごろ空いている時は開放し、藝大が泊まる時は安くなるという仕組みも考えられる。ここで県が出資しておくとその学生は安く泊まることができ、空いている時は貸出の契約をしておくやり方もアイディアとして思った。

絹谷委員）

人を呼ぶためにはアクセスの良さが大切。駅から近いことはメリットがある。最近では自転車もブームになっている。

条例で担保することはすごく大切だと思うが、条例とは別に将来にわたって理解される村の理念が必要。

学校教育では「上手い」ということが評価されるが、それでは全員が同じような絵になってしまう。文化村では様々な人が輩出されるような施設になってほしい。

荒井知事）

絵と同じことが習字にも言える。テーマを与えて子どもたちに好きに書かせるようにしたい。先生は「どうしてこのように書いたの」と聞くなど、習字を先生と子どもの対話の道具とし、子どもたちが自分の気持ちを言葉で表現させるようにしたい。このような取り組みを理念化し、仕組みを構築して実行していきたい。この施設では芸術文化を学ぶのではなく、創ることを目的としたい。

佐藤委員）

ホテルは食事を取ることができるのか。

事務局）

ホテルで食事を取るところはないが、施設内に産直レストランがある。また、ホテルのコンセプトとして、ホテル内で完結するわけではなく地域に出向いて地元の食材を楽しんでもらうなどエリア型の施設である。

荒井知事）

ホテルを運営するフェアフィールドは周りと共存することを目指し、来訪者をホテル内に閉じ込めないというコンセプトを持っている。

佐藤委員）

天理市内には食事をする場所があるのか。

並河市長）

歩くと少し距離があるが、自転車の範囲であれば食べるところはある。

絹谷委員）

最近行った道の駅には温泉があったが、ここはあるのか。

荒井知事）

文化村に温浴施設は想定してないが、近くに既設の奈良健康ランドがある。

また食べに行くところとして、25 号線を西に行くと県施設で中央卸売市場がある。再開発を検討しており、イータリーのような食堂街を造ることを考えている。卸売市場であるため食材は豊富であり、ここに朝食を買いに行ってもよいと思っている。ここにもホテル建設を考えており、アクティビティや食べ物を常時提供する場所(イータリー)を造ることを検討しており、9 月には基本計画を作成する。文化村の連携施設としても考えられる。

浮舟委員）

村長として知事の思いがあるのは大切だが、キーパーソンは副村長ではないかと思う。副村長として日常的に運営していくプロデューサー的な役割を担う人材をどのように育成していくかが大切。県の常勤職員だと異動で変わってしまうが、副村長はマネジメントのプロ人材が必要だと考える。

荒井知事）

村長の知事はシンボリックだが、知事の理念が確立し、うまくいくまでのバッファと考えている。副村長は色んな組織と調整してバランスが取れる人。人材はある程度長期的に働ける県職員の OB なども考えられる。

佐藤委員）

コミッションを早く作ってもらいたい。早い段階から議論に参画してもらうべきだと思う。

荒井知事）

コミッションは大事な機能であり、バランサーでもある。早く設けるようにする。

佐藤委員）

天理大学との連携協定は結ばれたが、他大学などと全国展開のできる協定を

早め進めてほしい。県だけでなく、全国的につながりをもって継続性を確保してほしい。施設をつくってもしっかり動かないと意味がない。中身が大切。

荒井知事）

　ありきたりではないことを行っていく必要がある。ソフト面での取組の実例を聞いたり教えてもらったりして検討を重ね、早くネットワークを作れるようにしたい。

【以　　上】